

## 方針1:ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」の推進

- ふるさとの先人100人の生き方を学ぶ副教材を作成
- こども歴史文化館をリニューアルして1階に「特別展示室」を設置  
見学ツアーなど特別展に関連した参加体験型のイベントを実施
- 都会と比較しながら福井の生活の魅力を知る副教材を作成
- 全小学校で職場見学、全中学校で職場体験を実施
- 福井ゆかりの先人を学ぶ「心のノート」や「福井の希望」を道徳教育等に活用
- 教職員向けの人権教育の手引きを改訂し、実践事例等を追加
- 北潟湖周辺、六呂師高原周辺の「里山里海湖学校教育プログラム」を作成・活用

福井ゆかりの「ふるさと先生」授業実施高校：21校（平成26年度：13校）  
こども歴史文化館の年間入館者数：54,291人（平成26年度：53,259人）

## 方針2:夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

- ふくい理数グランプリを開催し、中学生・高校生1,433名が参加
- 中学校における英語・数学の習熟度別授業を試し、実施校の成績が向上
- 福井にゆかりのある百人一首などを取り入れた独自教材を作成
- 全小学校で百人一首を音読・暗唱、全中学校で故事成語、漢詩、論語を学習
- 高校3年生向けの大学別夏期・冬期セミナーに408名が参加
- 県独自の学力調査等のつまづき箇所等をまとめた参考資料を作成し、授業改善に活用
- 高校9校および特別支援学校2校に加え、新たに高志中学校にタブレット端末を導入  
フィールドワークに活用するなど授業改善を研究
- 高校入試制度見直しのため、選択問題および英語スピーキングテスト導入について検討
- 平成27年4月から本県独自のカリキュラムに基づく保幼小接続を全県で実施

国公立大学希望合格率：59%（平成26年度：61%）  
市町幼児教育アドバイザーの配置：14市町（平成26年度：—）

## 方針3:社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

- 高校生が選挙や政治のしくみを学ぶため、国が作成した副教材の活用を開始
- 県立学校の管理職と公民科教員を中心に公職選挙法などについての研修を実施  
さらに、各学校で全教職員を対象に研修を実施
- 企業と連携し、高校生の資格取得を促進する福井フューチャーマイスター制度を創設  
難関資格受験者数が前年比11.1%増、合格者数が前年比8.2%増
- 職業系高校2年生を中心に延べ1,975名が749事業所でインターンシップに参加
- 若狭東高校において、植物工場での野菜や薬草の商品開発など6次産業化に対応した  
農業学習を開始
- 商業系全6校において観光授業を開始。専門的な外部講師による授業を25回実施
- 産業人材コーディネーターによる就労支援や地元企業とのマッチングを実施  
高校における就職希望者の内定率は99.9%

高校生のボランティア参加回数：6,252回（平成26年度：6,070回）  
高校生の難関資格合格者数：836人（平成26年度：773人）

## 方針4:グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

- 小学校における英語教科化に備え、外国語大学と共同して教材等を開発  
英語教育の中核となる小学校教員向けの研修を実施
- 中学校ALTを増員し、学期1回程度の小学校訪問を開始
- 英語教育人材バンクを設置。11月から小学校外国語活動の支援を開始
- 中学生が、ふるさと福井の魅力を英語で紹介するPRカードを作成し、授業で活用  
修学旅行等の機会を活用し、国内外に発信
- 小学校全教員がラジオ講座等を活用した自主的な英語力向上を開始
- 英語を中心とした授業を行うための中学校・高校教員研修に108名が参加  
中学校・高校英語教員262名が外部検定試験を受検
- 英検準1級程度の英語力を持つ教員割合が向上（中学校：51.7%、高校：86.6%）
- 中国語学研修に高校生を5名派遣

英検3級相当以上を取得した中学生：42.7%（平成26年度：38%）  
英検準2級相当以上を取得した高校生：42.5%（平成26年度：36%）

## 方針5:福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

- 教育研究所を春江工業高校跡地に移転・整備するための改修設計を実施
- 新たな教育研究所内の「教育博物館」開設のため展示資料の調査・収集を開始
- 福井教育フォーラムを開催し、41都道府県から約800名が参加  
県外からの教育視察者は2,804名
- 教員自身の授業映像を活用した教員研修を若手教員研修に導入
- 若手教員と教育研究所による自主研究を21グループが実施  
教員が利用しやすい新たな支援制度を創設
- 他県先進校等に5名の教員を派遣するとともに、6県11名から1年間の派遣研修を受け入れ
- 退職教員による小学校の外国語活動、中学校・高校の補習指導など学習支援を開始

若手教員が参加した自主研究グループ数：21グループ（平成26年度：－）  
教員の通信研修受講件数：4,444件（平成26年度：1,375件）

## 方針6:安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

- いじめ対策として学校全体での未然防止と発生後の組織的対応による早期解消を徹底
- 不登校対策として5日以上連続欠席した児童・生徒に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる対応を徹底するとともに、早期復帰を支援
- 高校生による脱スマホサミットを開催するとともに、小・中学校および高校においてインターネット適正利用の自主的なルール作りを推進
- 特別支援学校と小・中学校の交流および共同学習を促進  
高校との作業学習を充実して販売会・展示会增加（85回、平成26年度：60回）
- 学校ジョブコーチによる実習支援など特別支援学校生徒の一般就労を支援
- 全小・中学校において目を休めるリフレッシュタイム、ビジョントレーニングを実施
- 全小学校1～4年生を対象に歯みがき教室を実施するとともに、歯科二次検診を開始
- 全学校において地震や津波などの避難訓練を実施  
原子力発電所から30km圏内の全学校において原子力災害避難訓練を実施

年度内のいじめ解消率：95.5%（平成26年度：95.7%）  
特別支援学校生徒の一般就労率：32.9%（平成26年度：30.6%）  
むし歯のない小学生の割合：68.4%（平成26年度：65.9%）

## 方針7:児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

- 県立高校再編について、関係者の意見を聞くなど情報収集を実施
- 道守高校を除く夜間定時制4校を平成29年度から募集停止。昼間に移行
- 武生高校池田分校を平成30年度から募集停止  
丸岡高校城東分校を平成29年度から丸岡高校定時制に移行
- 統合予定の小・中学校に対する教職員の増配置を統合前後の2年間に拡充  
平成28年度は4小学校に増配置
- 全小・中・高校の耐震工事を完了
- 学力、スポーツ・文化活動の成果に応じ、私立高校の魅力向上のための補助を実施
- 就職・進学など卒業生の県内定着を促進するための私立高校に対する補助制度を創設

学校施設の耐震化率：100%（平成26年度：94%）

## 方針8:生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

- 福井ライフ・アカデミー主催講座を4,817名が受講
- 社会教育団体の行う人材育成や地域づくり活動を支援するとともに、活動内容を紹介・発信
- 青少年教育施設における長期宿泊体験事業（サマーチャレンジ）に144名が参加
- 芦原青年の家の再整備に合わせた新体験プログラムを試行  
施設整備工事を行い、平成28年7月に新芦原青年の家を開所予定
- 青少年教育施設利用者を対象に、里山里海湖研究所や自然保護センターと連携したワークショップを実施
- 親子で同じ本を読む親子読書を全小・中学校において新たに実施
- 由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」を6回開催し、1,160名が参加
- 出前家庭教育講座を年間95回実施し、約1,900名の保護者等が参加
- 「家庭教育相談・応援サイト」に10,092件のアクセス

青少年教育施設の長期宿泊体験者数：144名（平成26年度：130名）

## 方針9:地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

- 弦楽クラブを設置する学校を2校増やし、県内4地区全12校において活動  
新たに複数地区による合同演奏会を開催
- 美術教育の推進校を新たに13校指定。授業公開には延べ223人の教員が参加  
東京藝大派遣教員による日本画実技研修会に167名の教員が参加
- 全小学5年生を対象に県立音楽堂でのオーケストラ鑑賞を実施（7,138名参加）  
福井ゆかりの演奏家を中学校に派遣する「出張音楽堂」に4,143名が参加
- 県立図書館への調査相談件数が約12,000件増加（43,894件）
- 福井ふるさと文学館において、本県ゆかりの作家・作品をテーマに企画展などを開催  
開館からの入館者数は103,421名
- 著名作家や編集者などを講師とした「ふくい文学ゼミ」を28名が修了
- 立命館大学と共同し、「白川文字学による漢字教育の効果検証」を実施  
福井独自の漢字教育を紹介する公開講座を県外5か所で開催。240名が参加  
漢字指導者認定講座を計7回開催し、63名を新たに認定（累計200名）
- 「中村家住宅」の国重要文化財指定、「越前鳥の子紙」の県文化財指定など11件の  
国・県文化財指定を実施
- 一乗谷朝倉氏遺跡博物館（仮称）整備基本計画を策定
- 市町と連携して敦賀赤レンガ倉庫を整備（ジオラマ館・レストラン館）  
入館者は5か月で約70,000名以上
- 丸岡城国宝指定に向け、専門家による調査研究委員会を組織し、建築年代を調査

小・中・高校の弦楽クラブ等参加者数：155名（平成26年度：98名）  
県立図書館年間貸出冊数：838,779冊（平成26年度：819,031冊）  
文化財指定件数：11件（平成22～26年度平均：9.6件）

## 方針10:「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

- 中学校・高校の強化指定校を6校増やし部活動における強化を促進  
平成27年度：84校216部（平成26年度：78校197部）
- スーパーアドバイザーの派遣競技・回数を増加  
平成27年度：40競技326回（平成26年度：37競技259部）
- 「スポジョブふくい」等を活用して県外有力選手のUターンを促進  
62名の有力選手を確保（累計110名）
- 福井国体の会場となる施設について、5施設の改修が完了  
〔陸上競技場、エアライフル射撃場、クレー射撃場、野球場、漕艇場〕  
市町競技施設31施設のうち19施設の整備に着手。6施設が完了
- 東京オリンピック事前キャンプ誘致のため、越前町のホストタウン登録申請など  
市町の活動を支援
- 総合型地域スポーツクラブ間の連携イベントを開催（6回）
- 全国体力・運動能力調査において、全種別において体力合計点が全国1位  
県独自の体力・運動能力調査を活用して計画的な体力向上を実施
- 小学校低学年の体育授業に指導者を派遣（30校）  
全中学校に指導者を派遣し、国体種目の体験教室を実施

国体男女総合成績：26位（平成26年度：17位）  
「スポジョブふくい」等による有力選手の確保：62名（平成26年度：48名）